

令和4年度 福島市在宅医療・介護連携支援センター事業計画書

事業項目		計 画	事業内容
①	(ア) 地域の医療・介護資源の把握	情報収集（医療・介護）	・病院MSW(20か所)、包括（22か所）への訪問によるヒアリングの実施。課題の集約。 ・県北地域緩和ケア社会資源情報の収集協力
		専門職・市民への周知	・病院、包括支援センター、在宅医療・認知症専門医等、居宅、薬局の情報収集とホームページの更新 ・ホームページを中心に各種情報の発信
	(イ) 課題抽出と対応検討	運営協議会意見交換	・運営協議会での活動報告。代表委員からの意見聴取と意見交換（2回/年）
		地域会議への参加（事業・活動についての報告）	・地域包括支援センターと連携し会議へ参加。事業・活動についての報告をしながら地域の課題把握
		他市町や他在宅医療・介護連携支援センターとの情報共有や情報交換	・福島県在宅医療・介護連携支援センター会議の出席 ・他市、他センターの視察研修（県センター主催）
	(ウ) 切れ目ない在宅医療	在宅医療機関の現状と課題の把握	・「福島市在宅医療ネットワーク」の現状把握アンケートの実施(2年ごとの意向調査と合同実施)
		【重点】 アウトリーチ、同行型支援システムの構築	«事業目的»必要に応じて訪問診療医師、訪問看護師等の専門職を派遣し、同行訪問により在宅療養の開始、継続の支援を行う ・各専門職団体等の理解、協力を得るための働きかけを行い事業開始に向けた基盤を構築 ・フローチャート作成、コーディネート業務準備
		M S Wとの地域医療会議	・M S Wと地域支援についての情報収集と研修企画及び市CWとの研修会 2回/年（6月・1月）
		医療と介護のネットワーク 充実支援	・ZOOMを活用しネットワークの充実に向けた支援 事務局会議（4回/年）、定例会開催支援（3回/年）研修会（1回/年）
	②	(オ) 相談受付	相談受付・記入・集計
関係機関へ 課題と対応策の提案			・相談内容から在宅医療・介護の課題を把握し行政、他関係機関・団体等への報告、解決策の提案を実施 ・理解と改善につながる研修企画
(キ) 市民周知		市民向け講演会開催	・第4回市民公開講座 令和5年3月16日福島テルサ予定 7月～企画準備（身寄りのない方の支援）
		包括区域での研修会	・各包括圏域、各地区社協、各民生委員協議会等からの依頼による研修会の開催「在宅医療について」
		市民向けミニ講座 テーマ「わかりやすい在宅医療のお話」 「わたしの人生ノート書き方講座」他	・周知方法の拡大（市政だより・ホームページ。もちろん体操実施団体への出前講座として位置づける。など）を図り、依頼件数の増加を目指す ※COVID-19感染防止対策を行いながら、少人数で開催
(工) 情報共有の支援		退院調整ルール評価	・モニタリングアンケート調査実施（5月～依頼、7月～9月集約・集計、9月～評価会議準備） ・福島市の結果についてホームページに掲載し周知する
		I C T 説明・活用研修会	・I C T を利用するメリットが理解できるような研修の企画（1回/年 9月予定）
		在宅療養支援者確認シート作成	・作成にむけた準備（ワーキンググループの設置）
(力) 研修企画		研修会企画・開催	・認知症支援に関する知識・技術の研修（3回/年） ・終末期に関する研修（1回/年）
		多職種連携支援	・専門職集団からの企画提案による研修の開催（フレイル研修第2弾 2回/年） ・【新規】ZOOMミニ学習会（テーマ未定 2回/年）テーマに沿った講師を囲んでZOOMにより小人数で学習する
	【重点】 主任介護支援専門員フォローアップ研修	«事業目的»主任介護支援専門員が必要なスキルを習得することにより地域の社会資源として貢献できるようになる ・講師：特定事業所居宅のケアマネ（予定） ・市と共同で開催 9月予定	
③	対策の評価・改善	評価指標のデータ収集	評価指標 ①退院調整ルール連絡漏れ率（プロセス評価） ②自宅死亡率（プロセス評価） ③在宅医療の訪問患者数（プロセス評価） ④在宅医療の訪問患者率（アウトカム評価） ⑤自宅看取り数（プロセス評価） ⑥診療所数（ストラクチャー評価） ⑦在宅療養希望率（プロセス評価）
		評価と改善の検討	
その他の取り組み	在宅医療の推進	・在宅医療についての勉強会・在宅医療、受け入れ施設の医療・介護算定表を作成	
	障がい者支援	・障害の分野においても課題の共有を図る	
	医療・福祉職人材育成	・講師として依頼を受託し、医療福祉人材の育成に協力する	
	学会・研修会参加	・日本在宅医療連合学会大会7月23日～24日（WEB参加）	